

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 19 年 10 月 11 日 (2007.10.11)

【公表番号】特表 2004-537630 (P2004-537630A)

【公表日】平成 16 年 12 月 16 日 (2004.12.16)

【年通号数】公開・登録公報 2004-049

【出願番号】特願 2003-519153 (P2003-519153)

【国際特許分類】

C 0 8 L 67/00 (2006.01)

B 2 9 B 7/88 (2006.01)

B 2 9 B 9/12 (2006.01)

C 0 8 J 3/20 (2006.01)

C 0 8 K 5/10 (2006.01)

C 0 8 K 5/20 (2006.01)

C 0 8 K 5/3492 (2006.01)

C 0 8 K 5/5313 (2006.01)

B 2 9 K 67/00 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 L 67/00

B 2 9 B 7/88

B 2 9 B 9/12

C 0 8 J 3/20 C F D A

C 0 8 K 5/10

C 0 8 K 5/20

C 0 8 K 5/3492

C 0 8 K 5/5313

B 2 9 K 67:00

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 19 年 8 月 23 日 (2007.8.23)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

A) 熱可塑性ポリエステル 20 ~ 97 質量%、

B) ホスフィン酸塩及び / 又はジホスフィン酸塩及び / 又はそのポリマー 1 ~ 40 質量%
(この際、成分 B) は、10 μ m 未満の平均粒度 (d_{50} - 値) を有する)、

C) 窒素含有の防炎剤 1 ~ 30 質量%、

D) 10 ~ 40 個の C - 原子を有する飽和又は不飽和脂肪族カルボン酸と 2 ~ 40 個の C - 原子を有する脂肪族飽和アルコール又はアミンとの少なくとも 1 種のエステル又はアミド 0 ~ 5 質量%、

E) 他の添加物質 0 ~ 60 質量%

(この際、成分 A) ~ E) の質量% の合計は 100 % である)

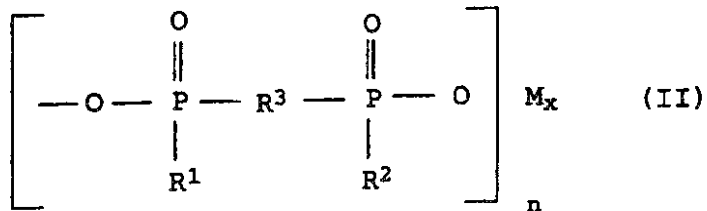
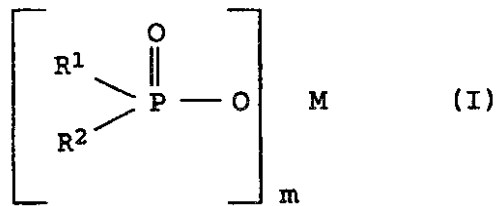
を含有する熱可塑性成形材料。

【請求項 2】

式 I のホスフィン酸塩及び / 又は式 II のジホスフィン酸塩及び / 又はそのポリマーを

含有する、請求項 1 に記載の熱可塑性成形材料：

【化 1】



[この際、置換基は次のものを表わす：

R^1 、 R^2 は、フェニル基、水素、1 個のヒドロキシル基を含有してよい直鎖又は分枝鎖の $\text{C}_1 \sim \text{C}_6$ - アルキル基であり、

R^3 は、直鎖又は分枝鎖の $\text{C}_1 \sim \text{C}_{10}$ - アルキレン基、アリーレン基、アルキルアリーレン基又はアリールアルキレン基であり、

M は、アルカリ土類金属、アルカリ金属、Zn、Al、Fe、ホウ素であり、

m は、1 ~ 3 の整数であり、

n は、1 及び 3 の整数であり、かつ

x は、1 又は 2である]。

【請求項 3】

成分 B) は、7 μm 未満の平均粒度 d_{50} 値を有する、請求項 1 又は 2 に記載の熱可塑性成形材料。

【請求項 4】

成分 B) は、4 μm 未満の d_{10} 値を有する、請求項 1 から 3 までのいずれか 1 項に記載の熱可塑性成形材料。

【請求項 5】

成分 B) は、40 μm 未満の d_{90} 値を有する、請求項 1 から 4 までのいずれか 1 項に記載の熱可塑性成形材料。

【請求項 6】

成分 C) は、メラミン化合物から構成されている、請求項 1 から 5 までのいずれか 1 項に記載の熱可塑性成形材料。

【請求項 7】

一般式 I 及び II において、 R^1 及び R^2 は水素を表わし、M はカルシウム又はアルミニウムである、請求項 1 から 3 までのいずれか 1 項に記載の熱可塑性成形材料。

【請求項 8】

先ず、成分 B) 及び C) を混合させ、引続き、成分 A) 及び場合により D) 及び / 又は E) を混合させ、溶融物中で均質化し、取り出し、冷却させ、造粒する、請求項 1 から 7 までのいずれか 1 項に記載の熱可塑性成形材料の製法。

【請求項 9】

先ず、成分 B) 及び C) を混合させ、一緒に粉碎し、引続き、他の成分を混合させる、請求項 8 に記載の熱可塑性成形材料の製法。

【請求項 10】

繊維の製造のための、請求項 1 から 7 までのいずれか 1 項に記載の熱可塑性成形材料の

使用。

【請求項 1 1】

シートの製造のための、請求項 1 から 7 までのいずれか 1 項に記載の熱可塑性成形材料の使用。

【請求項 1 2】

成形体の製造のための、請求項 1 から 7 までのいずれか 1 項に記載の熱可塑性成形材料の使用。

【請求項 1 3】

請求項 1 から 7 までのいずれか 1 項に記載の熱可塑性成形材料から得られる、又は請求項 8 又は 9 に記載の方法条件により得られる成形体。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 8】

この種類のポリアルキレンテレフタレートは自体公知であり、文献に記載されている。これは、芳香族ジカルボン酸から由来する芳香族環を主鎖中に含有する。この芳香族環は、例えば、ハロゲン、例えば、塩素及び臭素によって、又は $C_1 \sim C_4$ - アルキル基、例えば、メチル基、エチル基、イソプロピル基又は n - プロピル基及び n - ブチル基、イソブチル基又は t - ブチル - 基によって置換されていてもよい。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

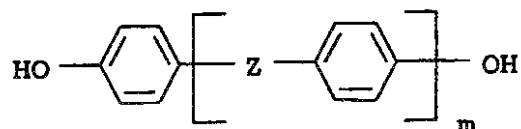
【訂正対象項目名】0 0 3 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 3 3】

【化 1】



[式中、Zは、8 個までの C - 原子を有するアルキレン基又はシクロアルキレン基、1 2 個までの C - 原子を有するアリーレン基、カルボニル基、スルホニル基、酸素原子又は硫黄原子又は化学結合であり、m は、0 ~ 2 の値を有する]。この化合物は、フェニレン基に置換基として、 $C_1 \sim C_6$ - アルキル基又はアルコキシ基及び弗素、塩素又は臭素を有することもできる。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 3 8

【訂正方法】削除

【訂正の内容】

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 3 9

【訂正方法】削除

【訂正の内容】

【誤訳訂正 6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】 0 0 4 0

【訂正方法】 削除

【訂正の内容】

【誤訳訂正 7】

【訂正対象書類名】 明細書

【訂正対象項目名】 0 0 4 1

【訂正方法】 削除

【訂正の内容】

【誤訳訂正 8】

【訂正対象書類名】 明細書

【訂正対象項目名】 0 0 4 2

【訂正方法】 削除

【訂正の内容】

【誤訳訂正 9】

【訂正対象書類名】 明細書

【訂正対象項目名】 0 0 4 3

【訂正方法】 削除

【訂正の内容】

【誤訳訂正 1 0】

【訂正対象書類名】 明細書

【訂正対象項目名】 0 0 4 4

【訂正方法】 削除

【訂正の内容】

【誤訳訂正 1 1】

【訂正対象書類名】 明細書

【訂正対象項目名】 0 0 4 5

【訂正方法】 削除

【訂正の内容】

【誤訳訂正 1 2】

【訂正対象書類名】 明細書

【訂正対象項目名】 0 0 4 6

【訂正方法】 削除

【訂正の内容】

【誤訳訂正 1 3】

【訂正対象書類名】 明細書

【訂正対象項目名】 0 0 4 7

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【0 0 4 7】

好適な連鎖遮断剤は、例えば、フェノール、p - t - ブチルフェノールであるが、D E - O S 2 8 4 2 0 0 5 による、長鎖のアルキルフェノール、例えば、4 - (1 , 3 - テトラメチルブチル) - フェノール、又は D E - A 3 5 0 6 4 7 2 による、アルキル置換基中に合計して 8 ~ 2 0 個の C - 原子を有するモノアルキルフェノール又はジアルキルフェノール、例えば、p - ノニルフェノール、3 , 5 - ジ - t - ブチルフェノール、p - t - オクチルフェノール、p - ドデシルフェノール、2 - (3 , 5 - ジメチル - ヘプチル) - フェノール及び 4 - (3 , 5 - ジメチルヘプチル) - フェノールである。

【誤訳訂正 1 4】

【訂正対象書類名】 明細書

【訂正対象項目名】 0 0 5 6

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【0056】

式中、1個だけの基 R^1 又は R^2 が水素を表わす好適な式I又はIIの塩は、例えば、フェニルホスフィン酸の塩であり、この際、そのNa - 塩及び / 又はCa - 塩が有利である。

【誤訳訂正15】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0067

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0067】

殊に、あらゆる種類のメラミン化合物が有利である。好適な化合物（しばしば、塩又は付加体としても表示される）は、メラミンボレート、メラミンオキサレート、メラミンホスフェート（第一）、メラミンホスフェート（第二）及びメラミンピロホスフェート（第二）、ネオペンチルグリコール硼酸メラミン及びポリマーのメラミンホスフェート（CAS - Nr 56386 - 64 - 2）である。

【誤訳訂正16】

【訂正対象書類名】明細書

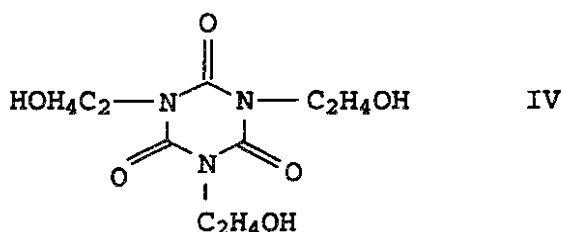
【訂正対象項目名】0071

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0071】

【化5】



のトリス（ヒドロキシエチル）イソシアヌレート（THEIC）又は、場合により相互に混合して存在し得る芳香族カルボン酸 $Ar(COOH)_m$ [この際、Arは1核、2核又は3核の芳香族六環系を表わし、mは2、3又は4である] とのその反応生成物が有利である。

【誤訳訂正17】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0091

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0091】

この際、有利に少なくとも2種の次のモノマーから構成されている共重合体が極めて一般的に重要である：エチレン、プロピレン、ブタジエン、イソブテン、イソプレン、クロロブレン、ビニルアセテート、スチロール、アクリルニトリル及びアルコール成分中に1～18個のC - 原子を有するアクリル酸エステル又はメタクリル酸エステル。

【誤訳訂正18】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0097

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0097】

EPM - ゴム又はEPDM - ゴムは、有利に、反応性カルボン酸又はその誘導体とグラフト結合していてもよい。この場合、例えば、アクリル酸、メタクリル酸及びその誘導体、例え

ば、グリシジル（メタ）アクリレート、及び無水マレイン酸が上げられる。

【誤訳訂正 19】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0098

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0098】

もう1つの有利なゴム群は、エチレンとアクリル酸及び／又はメタクリル酸及び／又はこの酸のエステルとのコポリマーである。更に付加的に、ゴムは、ジカルボン酸、例えば、マレイン酸及びフマル酸又はこの酸の誘導体、例えば、エステル及び無水物、及び／又はエポキシ-基を含有するモノマーを含有することができる。このジカルボン酸誘導体又はエポキシ-基含有モノマーは、有利に、モノマー混合物に、ジカルボン酸基含有又はエポキシ基含有の一般式I又はII又はIII又はIVのモノマーを添加することによってゴムに組み込まれる：

【誤訳訂正 20】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0104

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0104】

その他の有利なアクリル酸及び／又はメタクリル酸のエステルは、メチルエステル、エチルエステル、プロピルエステル及びイソブチルエステル又はt-ブチルエステルである。

【誤訳訂正 21】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0110

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0110】

エラストマーの軟質相又はゴム相（0 以下のガラス転移温度を有する）は、核、外被又は中央シェル（2シェル以上の構造を有するエラストマーの場合）であってよい；多シェルエラストマーの場合には、数個のシェルはゴム相から成ってもよい。

【誤訳訂正 22】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0112

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0112】

若干の場合に、表面に反応基を有する乳化重合体を使用することが有利であることが判明した。この種類の基は、例えば、エポキシ基、カルボキシル基、潜在カルボキシル基、アミノ基又はアミド基及び一般式：

【誤訳訂正 23】

【訂正対象書類名】明細書

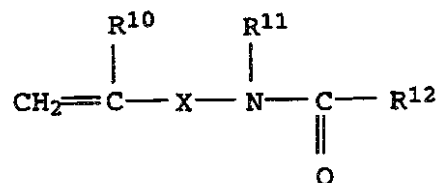
【訂正対象項目名】0113

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0113】

【化 1 1】



のモノマーの併用によって導入され得る官能基であり、この際、置換基は次のものであってよい：

R^{10} は、水素又は $\text{C}_1 \sim \text{C}_4$ - アルキル基を表わし、

R^{11} は、水素、 $\text{C}_1 \sim \text{C}_8$ - アルキル基又はアリール基、殊に、フェニルを表わし、

R^{12} は、水素、 $\text{C}_1 \sim \text{C}_{10}$ - アルキル基、 $\text{C}_6 \sim \text{C}_{12}$ - アリール基又は $-\text{OR}^{13}$ を表わし、

R^{13} は、 $\text{C}_1 \sim \text{C}_8$ - アルキル基又は $\text{C}_6 \sim \text{C}_{12}$ - アリール基を表わし、これは場合により O - 含有基又は N - 含有基で置換されていてよく、

X は、化学結合、 $\text{C}_1 \sim \text{C}_{10}$ - アルキレン基又は $\text{C}_6 \sim \text{C}_{12}$ - アリーレン基又は

【誤訳訂正 2 4】

【訂正対象書類名】明細書

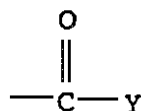
【訂正対象項目名】0 1 1 4

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 1 4】

【化 1 2】



を表わし、

Y は、 $\text{O}-\text{Z}$ 又は $\text{NH}-\text{Z}$ を表わし、かつ

Z は、 $\text{C}_1 \sim \text{C}_{10}$ - アルキレン基又は $\text{C}_6 \sim \text{C}_{12}$ - アリーレン基を表わす。

【誤訳訂正 2 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 2 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 2 3】

40 質量%までの量のこのグラフト重合体、殊に ABS - ポリマー 及び / 又は ASA - ポリマー は、有利に PBT の衝撃強度変性のために、場合により 40 質量%までのポリエチレンテレフタレートと混合して使用される。相応するブレンド - 生成物は、商標 Ultradur (登録商標) S (以前は、BASF AG 製、Ultrablend (登録商標) S) で得られる。

【誤訳訂正 2 6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 2 9

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 2 9】

繊維状又は粒子形の充填剤 E) として、炭素繊維、ガラス繊維、ガラス球、非晶質珪酸、アスベスト、珪酸カルシウム、メタ珪酸カルシウム、炭酸マグネシウム、カオリン、白亜、粉末石英、雲母、硫酸バリウム及び長石が挙げられ、これは、50 質量%まで、殊に 40 % までの量で使用される。

【誤訳訂正 27】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0144

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0144】

E)とは異なる滑剤及び離型剤は、通例、1質量%までの量で使用される。長鎖脂肪酸（例えば、ステアリン酸又はベヘン酸）、その塩（例えば、ステアリン酸Ca又はステアリン酸Zn）又はモンタン蠟（28～32個のC-原子の鎖長を有する直鎖の飽和カルボン酸から成る混合物）及びモンタン酸Ca又はモンタン酸Na、及び低分子ポリエチレン蠟又はポリプロピレン蠟が有利である。

【誤訳訂正 28】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0157

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0157】

これは、殊に、電気分野及び電子分野での使用のための繊維、シート及び成形体の製造に好適である。この使用は、殊に、ランプ部材、例えば、ランプ台及びランプホルダー、プラグ及びコネクタ、コイル枠、コンデンサー又は継電器スイッチ用ケース及びヒューズスイッチ、リレーケース及びレフレクターである。